

2020年度の医業利益率は▲4.3ポイント悪化 病院経営状況調査の結果を公表

全日病、日本病院会、日本医療法人協会の3団体は6月3日、病院経営状況調査の結果を公表した。2020年度第4四半期とともに、2020年度全体の状況が示された。2020年度の医業利益率の対前年度比は▲4.3ポイント。新型コロナの影響で病院の経営が悪化した。新型コロナ緊急包括支援交付金など支援金を加味するとプラス2.1ポイントに改善する。だが、それでも医業利益率自体は赤字であり、各病院のばらつきも大きい。

全日病の猪口雄二会長は会見で、「国・都道府県からの支援金を受け取ることで、全体では何とか病院の経営をつなぐことができると見通せる結果だ。しかし、クラスターの発生などで厳しい状況の病院もある。影響は千差万別で、支援金がないと対応は難しい。国に対しては、引続きの支援を求めている」と発言した。

新型コロナの病院経営への影響を把握するため、これまで第1～3四半期の結果を公表してきた。今回第4四半期までの結果がまとまり、2020年度全体の状況を把握することができた。各四半期調査の回答病院は一致せず、すべての調査に回答した741病院の結果を集計した。

2019年度と2020年度の医業利益率の変化をみると、2020年度は2019年度と比べ、全病院で▲4.3ポイント、コロナ患者受入れ「なし」病院で▲1.4ポイント、コロナ患者受入れ「あり」病院で▲4.7ポイント、一時的・外来病棟閉鎖病院で▲6.1ポイントであり、いずれも悪化している。

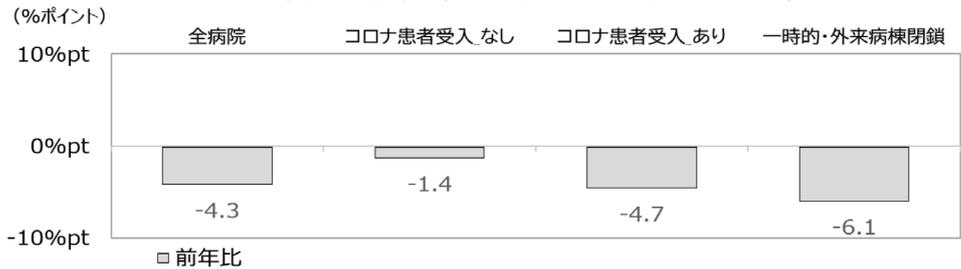
2020年度の医業利益率は、全病院で▲6.1%、コロナ患者受入れ「なし」病院で0.1%、コロナ患者受入れ「あり」病院で▲7.0%、一時的・外来病棟閉鎖病院で▲8.4%で、コロナ患者受入れ「なし」病院以外はすべて大きな赤字だ。

これに慰労金を除いた支援金を加味した医業利益率の変化をみると、全病院で2.1ポイント、コロナ患者受入れ「なし」病院で▲0.3ポイント、コロナ患者受入れ「あり」病院で2.4ポイント、一時的・外来病棟閉鎖病院で2.3ポイントという水準に改善する。コロナ患者受入れ「なし」病院を除けば、支援金の効果が大きいことがわかった。

ただ、各病院の医業利益率の変化の分布をみると、かなりばらつきがある。コロナ患者受入れ「あり」病院でも、支援金を加味した医業利益率が、マイナスの病院がかなりある。また、支援金により改善したとしても、多くの病院が赤字傾向であることに変わりはない。

なお、国・都道府県の支援金などの入金状況は3月末の集計であるため、申請額に対し、約75%となっている。

医業利益の推移（2019年度と2020年度の%の差）



支援金を加味した医業利益の推移（2019年度と2020年度の%の差）

